

## 瀬田囃子保存会の由来

祭礼囃子の由来（明治二八年）に次の様な事が記されている。

抑も神社祭典に於て、囃子及び舞子をなす其元始及び盛衰を記するに当たり  
先ず前世音楽の最も至近なるものを例證し以て起原の概畧を載す、

是却りて明瞭にして敢て贅言に非ざるべし。中略

天正十八年八月 徳川家康、江戸城に入り市街を開き邸第を設け諸神を祭る  
に当たり斯道再挽回し漸々隆盛の緒を開けり、

そして徳川三代将軍家光の頃（今より三〇〇余年前）から当地に伝承されたと  
言われている。

当時武家の間に歌舞音曲が好まれ一面には神事祭礼の勃興とともに、

広く民衆の間に行われるようになったと記されており

更に文化、文政の頃から明治に至り囃子連中なるもの、組織が生まれ、

東京府荏原郡玉川村字瀬田も（発起人）西尾惣吉、（大世話人）野崎弁蔵、

この二人の名が記録されている。

昭和五十八年二月十五日（記）大塚秀雄、吉村金男。